平成 30 年 3 月 29 日

教育学部長　殿

FD 委員会委員長
福田　亘博

平成 29 年度前期における「学生による授業評価及び授業点検シートによる教員の授業改善・学生の授業外学習時間調査」に関する報告書

本学部は、平成 26 年度にスタートし、今年度が完成年度となるため、「学生による授業評価」及び「教員による授業改善等を授業点検シート」による「教員個人の教育改善のための PDCA サイクル」について総括する予定であった。しかしながら、今年度の学生による授業評価が本学ウェッブ上に構築したデータベースに不具合が発生し、修復に時間を要したため、前期分のみについて取りまとめることにした。これらの総括は平成 30 年度に行うことにした。予めお詫びしておく。

以下に、今年度前期分の学生による授業評価結果及び教員による点検・改善について報告する。アンケートは、前期終了前１～２週間において実施した。

１）学生による授業評価

授業評価は、従来通り、以下のように（「1. 学生の受講態度について③ 項目」、「2. 授業内容について 6 項目」、「3. 授業の進め方について 4 項目」、「4. 担当教員 について３項目」、「5. その他 2 項目」とし、自由意見欄を設けた）のアンケート方式となっている。これらのアンケートは、大学内のデータベース上にシステムを構築し、前・後期終了前に学生が直接回答するようになっている。なお、平成 28 年度までは次の学期の講義登録をする前に授業評価アンケートを回答しないと登録できなかったが、これをフリーにした結果、授業評価アンケートに回答した学生が小数であったため、改めて学生を集めアンケートに回答させるようにした。しかし、この時点でシステムに不具合が発生しており、把握するのが遅れたため、後期分について集約することが不可能とな

った。直ちに、平成 30 年度より以前のシステム、すなわち授業評価アンケートに回答しないと次期の登録ができないシステムに戻した。

学生による授業評価項目は以下の通りである。なお、アンケート中の授業改善につながるアンケート項目について、十分（4 点）～しなかった（1 点）とし、さらに合計・平均した評価平均点を算出した。教員の授業における評価平均点（学生の成績 GPA に相当する教員の授業における GPA であることから、本報告書では「教員 GPA」記述とする）とした。

学生による授業評価項目

【1　あなたの受講態度について】

(1) 授業に出席するにあたって、予習、復習など必要な準備をしましたか

(2) 機会があれば質問、発言を行うなど積極的な態度で臨みましたか

(3) この授業にどれくらい出席しましたか

【２　授業内容について】

(1) この授業のシラバスの記述･説明は適切でしたか

(2) 授業内容はシラバスに沿って行われましたか

(3) 教材（テキスト、OHP、ビデオ、配付資料等）の利用は効果的でしたか

(4) この授業の内容を充分理解できましたか

(5) 授業内容に触発され、もっと勉強したいという気持ちになりましたか

(6) 「この授業で〇〇を学んだ」という充実感を感じましたか

【３　授業の進め方について】

(1) この授業の進む速さはあなたにとって適切でしたか

(2) この授業の学習内容の量はあなたにとって適切でしたか

(3) 授業にメリハリがあり、重要なポイントがはっきりと示されていましたか

(4) 授業方法は、学生の理解度や到達度に留意し工夫されていましたか

【４　担当教員について】

(1) 授業に対する教員の熱意・真剣さを感じましたか

(2) 声の大きさ、話し方、板書は適切でしたか

(3) 学生の発言や質問をしやすい雰囲気をつくるなど、学生の授業への参加を促す努力をしていましたか

【５　その他】

(1) この授業を他の学生にも勧めたいですか

(2) 総合的に判断して、この授業に満足しましたか（満足度）

平成 29 年度専任教員が担当した 1 年から 4 年次までの前期における教養科目・専門基礎科目・専門科目の 30 科目の講義・演習（教員別に整理）における「学生により授業評価」は表 1 の示すような結果であった。平成 26 年度から完成年度となる 29 年度までを総括すると、各講義・演習科目を担当する教員に対する学生の授業評価（教員 GPA 点）は、新任教員を除き、3.0～4.0 までに間にあり、高い水準にあると判断している。当初、3.0 以下の講義・演習があったが、教員は学生による授業評価結果やコメント等を参考に改善に努めた結果であると考えている（授業点検シートの項目で考察)。

表 1 には、学生による授業評価結果（満点は 4.0、教員 GPA）及び参考のために教員相互の授業参観結果（点数化）を記載した。なお、教員相互における授業参観は各教員について代表的な数科目において実施されており、平成 27 年度～平成 29 年度前期までの平均で示している。授業参観は教育学部の同じ教員で相互に授業参観を行い、大学の教育レベルの講義・演習であるか、同じ教員として学生に対して十分な配慮と分かりやすい教育を実践しているか、また必要に応じてアクティブラーニングなどの授業改善を務めているか、などをアンケートし、評価点としている。

表　平成 29 年度教育学部教員による前期における授業評価・授業参観（評価）

担当教員	講義名	受講者数（人）	学生による授業評価（教員 GPA）	教員相互の授業参観（平成 27 年度、平成 28 年度、29 年度）の平均
F	食の科学（1 年前期）	22	3.56	3.56
S	国語（1 年前期）	42	3.65	3.56
	国語科教育法Ⅰ（3 年前期）	27	3.40	
	国語科教育法Ⅱ（3 年前期）	19	3.50	
H	教育と社会（1 年前期）	5	3.55	3.02
A	障害児保育	12	2.83	3.13（平成 29 年

				度）
T	ピアノ声楽Ⅰ（2 年前期）	7	3.60	3.47
	ピアノ声楽Ⅲ（3 年前期）	4	3.64	
M	図画工作（2 年前期）	17	3.67	3.66
	図画工作科教育法Ⅱ（3 年前期）	8	3.65	
	造形表現演習（3 年前期）	14	3.52	
	保育内容指導法（造形表現）（2 年前期）	34	3.47	
A	教育相談（2 年前期）	34	3.69	3.79
	社会的養護（3 年前期）	12	3.76	
	社会福祉（3 年前期）	13	3.79	
	幼児理解（3 年前期）	36	3.69	
	家庭支援論（4 年前期）	7	3.67	
	社会的養護内容（4 年前期）	12	3.80	
	相談援助（4 年前期）	7	3.71	
W	算数（1 年前期）	42	3.37	3.89
	算数科教育法Ⅰ（3 年前期）	26	3.71	
	算数科教育法Ⅱ（3 年前期）	15	3.72	
	情報処理Ⅱ（2 年前期）	1	4.00	
Y	心理学概論（1 年前期）	33	3.91	3.98
	保育の心理学Ⅰ（2 年前期）	21	3.61	
	学修の科学（4 年前期）	5	4.00	
N	学級経営論（3 年前期）	26	3.71	3.71
S	理科教育法Ⅱ（3 年前期）	9	3.83	3.65
	理科教育法Ⅲ（3 年前期）	14	3.79	
	保育内容指導法（環境）（2 年前期）	32	3.38	

以上のように、今年度は授業評価について詳細に分析した。その結果、学生による授業評価結果のみに注視するのではなく、個々の授業評価の項目及びその総合点が意味するもの及び教員相互の授業参観等を考慮した時、幾つかの問題がクローズアップされた。すなわち、学生による授業評価結果のみの数字に囚われることなく、その背景にある問題である学生の基礎学力をアップさせ、さらに授業外学習（自宅学習）時間を適正な時間数を確保しつつ、本学部の授業改善と教育の質保証に取り組む必要があることが明らかになった。

最近、３つのポリシーについて、再度見直しを行い、再策定し、本学のホームページ

へアップした。この 3 つのポリシーについて、実質化を図ることが学校教育法の改正に伴い、法律的に求められることになった。特に、ディプロマポリシーの実質化、すなわち教育学部として、学生にディプロマポリシーに掲げた素養を卒業時には確実に身につけているかを確認する必要がある。従って、今後教育学部として組織的な FD 活動は益々その重要性が増すことが確実であることから、平成 29 年度の完成年度には、学部としての組織的な FD 活動を完成させる方向で、教職員の協力を得ながら推進する予定である。

２）教員による授業点検シート

教員による授業点検シートでは、教員の授業改善に関する教員個人の PDCA サイクルの一環で必要な以下の事項をアンケートとして回答し、FD 委員会委員長あてに提出している。

教員による授業点検シート

作成日　　月　　日

平成　　年度	授業科目：	担当者：	
授業の期別・曜日・時限：　　期・　　曜・　　～　時限			単位数：
授業の区分：　専門教育科目（必修・選択必修・選択）		教室：	
受講者数（最終的に成績評価した学生数）：　学科内　　名、　学科外　　名			
「学生による授業評価」の実施：　した・しなかった		出欠確認回数：　　回	
授業回数（試験を含まない）：　　回	休講回数（注１）　　回		
休講に対する代替措置（補講、レポート、その他）およびその回数：			
授業の方法・工夫（板書、使用機器、教科書、講義資料など）：			
成績評価方法（試験、レポートなど）と評価の基準：			
レポートおよび答案の返却（返却時期と返却の仕方など）：			
成績評価の内訳（注２）：秀　　%、優　　%、良　　%、可　　%、不可　　%			
シラバスに記載した授業計画の達成度：			
学生の学習状況（予習、復習、質問など）と学習態度：			
「学生による授業評価」から見た来年度の課題：			

注１：時間割に規定されている時間に授業を行わなかった回数

注２：比率算出の母数は最終的に成績評価した学生数とする。再・追試試験を含めて試験終了後に提出する。

特に、教育改善につながる PDCA サイクルのチェックと改善に相当するアンケート項目で、「学生による授業評価から見た来年度の課題として、教員がどのように改善するかを明記する」ようにしている。これらは本学部の FD／SD 活動の取組として公表している。各教員から提出された授業点検シートは、的確に問題点がある場合には改善方法等が明記されており、教育学部 FD 委員会において確認していることから、教育学部として組織的な FD 活動は機能していると判断している。

今年度の授業点検シートでは、教員の中には完成年度となるため、平成 26 年度以降～今年度前期までの教員 GPA の推移を示し、また、コメントとして良かった点、改善点までを示し、授業改善に努めている教員が複数いることは、本学の教育の水準を維持・向上するために心強い限りである。

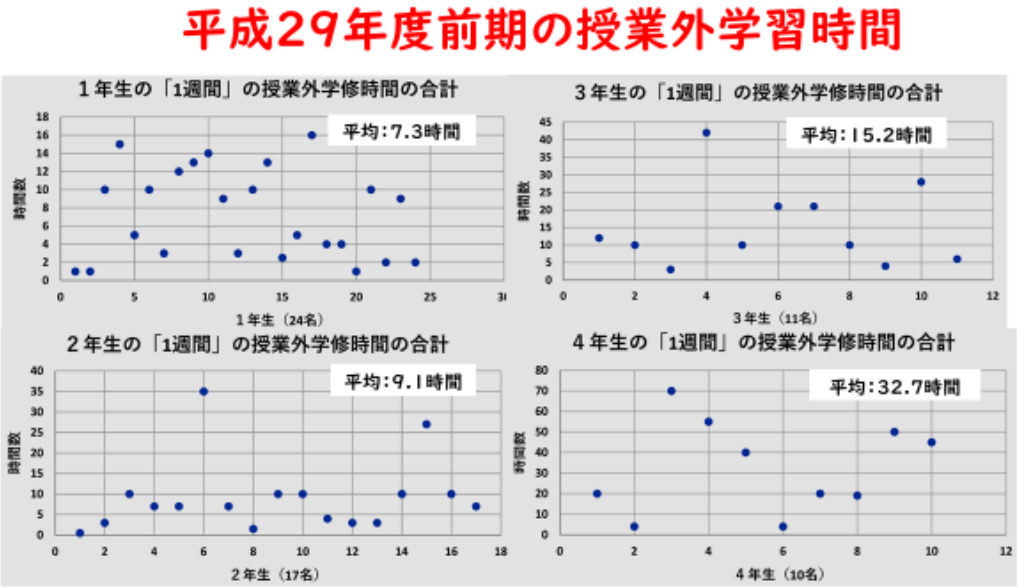
一方、問題点として、高評価の講義・演習の中に、成績評価（秀、優、良、可、不可）の分布を見ると、そのピークは優又は良にあり、また、可あるいは不可判定の学生も存在している。最近の傾向として、各講義・演習の到達目標に対して何を身に付けたかで評価する方法が推奨（3 つのポリシーの実質化における議論）されており、これを考慮すると必ずしも良い講義・演習が学生の知識・技能につながっていないことが伺えた。なお、平成 30 年度の学生による授業評価ではこの点に焦点を当てて報告書を取りまとめる予定にしている。

本学部は教育学部であり、教員養成学部である。特に、小学校一種免許状取得を目指す学生は各県が実施する教員採用試験に現役で合格しないと正式の教員にはなれない。大学の教育は、教員採用試験に合格することがすべてではないが、教員養成が学部の主目標・目的である限り、本学部における教育が教員採用試験合格に直結させられるかを検討することは極めて重要である。

３）学生の授業外学習時間の調査

本学部では、教育改善を実践するために、「学生による授業評価」及び「教員による授業点検シートの提出による授業改善」、「教員相互の授業参観」などを実施している。一方で、平成 28 年度 FD 報告書において、各講義・演習における教育を如何に学生に周知・理解させ、如何に知識・技能とするために、授業外学習時間が非常に重要であることを確認した。平成 27 年度より、授業外学習時間についてアンケートを実施している。平成 29 年度前期における授業外学習時間を示す。なお、アンケートは、7 月末に１週

間あたり何時間勉強したかをメールで学生に周知・実施した。



その結果、１年生～４年生に進級するにしたがって、授業外学習時間は増加している。４年生における授業外学習時間（1 週間あたり平均 32.7 時間）は、教員採用試験が７月中旬に実施されることによるものと考えられた。３年生は 15.2 時間であった。しかし、１年生、２年生はそれぞれ 7.3 時間、9.1 時間となっていた。授業外学習時間は設置基準等で毎日３時間以上となっていることから、学生への聞き取り等を実施した結果、アルバイトが忙しいなどであった。

一方、教員への聞き取りでは、各講義・演習で、振返りなどのためにレポートや小テストを実施するようにお願いしていること（担当教員からはほとんどが実施しているとの回答）から、１年生、２年生における授業外学習時間が正確に測れていない可能性がある。いずれにしても、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの実質化にあたって学生の授業外学習時間は重要であることから、さらにアンケート実施方法等について、今後検討を行う予定である。

以上